

## ✠037 日本語聖書の歴史

日本語聖書の歴史は古くはキリシタン時代から始まり、現存する資料としては幕末に作られたギョツラフによる「ヨハネ伝」「ヨハネ書簡」が最古である。その後ヘボンやブラウンの懸命の努力により1887年(明治20)に「文語訳聖書(舊新約聖書)」(明治元訳)が完成した。

その後1955年に口語体による聖書である「口語訳聖書」が作られるが、編集方針をめぐり1970年に「新改訳聖書」が誕生。そして1987年にプロテスタント・カトリック双方での利用を目的とした「新共同訳聖書」が作られた。現在は次世代に向けての改訂が進められている。

### ✠文語訳聖書

旧約部分は1887年の「明治元訳」、新約部分は1917年の「大正改訳」から成っている。

「明治元訳」は明治初期からヘボンやブラウンが中心となって聖書の日本語訳を進め、1887年に完成。誰にでも分かる易しい文章と、格調の高い漢文風の文章との独特の和漢混交文にて訳される。近代日本の文学へも影響を与えた。

「大正改訳」は明治元訳の改訳版として1917年に新約聖書が完成。より正確な訳になり、日本語としても読みやすくなった。旧約聖書は完成する前に戦後となり方針が口語訳になったため、未完のまま終わった。発行元は日本聖書協会。

### ✠口語訳聖書

1954年に新約、1955年に旧約聖書が刊行。

第二次世界大戦後の日本において、それまでの文語訳のみではなく口語(現代語)での聖書が必要とされ翻訳された。戦後日本において長年に渡り愛されてきた聖書。近代聖書批評学に偏っていると指摘もあり、新改訳聖書誕生の糸口ともなった。発行元は日本聖書協会。

### ✠新改訳聖書

1970年に初版が刊行。現在は2003年刊行の第3版。

「聖書を『誤りなき神のみことば』と確信する42名の翻訳者による委員会訳」。多く福音派の教会にて使用される。翻訳としては原典に忠実な逐語訳を特徴とする。また差別用語などにも多大な配慮をし、第3版では「らい病」を「ツアラアトに冒された」と変更している。文語訳・口語訳の伝統的固有名詞を継承し、「大正改訳」に敬意を表して新改訳と名づけられている。発行元は日本聖書刊行会。

### ✠新共同訳聖書

1987年に初版が刊行。20世紀後半からのエキュメニカル運動(教会一致運動)の流れを受けて、カトリック・プロテスタント双方において共通して使える聖書の翻訳として作られた。

1978年に「共同訳聖書」(※1)が出版されたが用語の問題などもあり、新たな翻訳として「新共同訳聖書」が生まれた。プロテスタント以外の教派でも使えるようにと「第二正典」(※2)も「旧約聖書続編」として収録されている。また、典礼や礼拝でも用いられるようにとの考えから色々な教派の翻訳慣行や、朗読時の読みやすさに配慮している点が特徴。発行元は日本聖書協会。

※1：共同訳聖書

1978年に初版が発行。エキュメニカル運動の流れより、カトリック・プロテスタント双方での共通の聖書として翻訳される。今までの聖書に比べ、固有名詞の表記の違い(「イエス」「パウロス」など)や、翻訳が意識すぎる(「動的等価法」※3を導入)などの点により評判が良くなく、新たな訳として新共同訳が作られた。

※2：第二正典…旧約外典とも。カトリック・聖公会・正教会では正典だが、プロテスタントでは正典としない書物を言う。新共同訳聖書では「トビト記」「ユディト記」「エステル記(ギリシャ語)」「マカバイ記1.2」「知恵の書」「シラ書」「バルク書」「エレミヤの手紙」「ダニエル書補遺」「エズラ記(ギリシャ語)(ラテン語)」「マナセの祈り」が収録されている。

※2：動的等価法…聖書の文章を字句・形式的に対応させて翻訳していくのではなく、実質的に対応させて翻訳していく方法論。

共同訳聖書ではそれまでの「心の貧しい人たちが」「ただ神により頼む人々」と訳された。

☆個人訳・その他の聖書

- ・現代訳聖書…尾山令仁(おやま れいじ)による個人訳聖書。
- ・フランシスコ会訳聖書…カトリックのフランシスコ会により訳された聖書。
- ・現代訳聖書…柳生直行による個人訳聖書。
- ・バルバロ訳聖書…フェデリコ・バルバロ(イタリア出身のサレジオ会士・聖書学者、1935年、カトリックの宣教師として来日)による個人訳聖書。
- ・岩波訳聖書…岩波書店より刊行された聖書。各巻に訳者が明記されているのが特徴。